

NPO救命おかやま 会報

NPO
救命おかやま
Kyumei Okayama



Vol. 37

2022 6. 1 発行



1. ご挨拶

理事 平田早苗（川崎医科大学附属病院）

NPO 救命おかやまの会員の皆さま、ご無沙汰しております。今回の巻頭言は平田が担当させていただきます。私が NPO 救命おかやまの理事を拝命してから3年が経とうとしています。その間、ご存じのとおり新型コロナウイルス感染症で NPO 救命おかやまの活動も制限され、コース開催もままならない状況です。1年前の会報（Vol.35）でも少し書かせていただいておりますが、私は感染管理認定看護師として勤務をしており、この2年半はコロナ対応に追われる毎日で、院内の心肺蘇生の研修にも参加できなくなり、自分の胸骨圧迫のスキルにやや不安を感じているところです。



しかし、コロナ禍でスキルが付いたというか、使えるようになったものもあります。それは WEB を使った会議やセミナーなどへの参加やパワーポイントを動画にすることです（決してプレゼンテーションが上手くなったわけではありません）。NPO 救命おかやまでも WEB を通じた講演会やミニレクチャーを開催しており、タブレットやスマートフォン等からご参加いただいた方もいらっしゃると思います。WEB での開催は、コロナ対策として3密（密閉・密集・密接）を回避するために、やむなくとられた手段ではありますが、移動時間不要でどこからでも参加でき、そういった意味でも参加しやすかったのではないのでしょうか。私自身は、なんとなく苦手意識があり、無理と思っていたことも、必要に迫られればどうかし、やってみれば案外いけるかもといった感じです。

今後、感染状況にはよるでしょうが、制限されていた様々ことを緩和する方向にシフトしていくことと思います。しかし、3年前と同じになることは無く、今回の経験の中で学んだ新常識（ニューノーマル）で過ごしていくこととなります。その中にはきっと WEB を使った研修会も含まれ、心肺蘇生の研修にも WEB が活用されているのではと思います。もう少し先にはスキルのチェックも画面越しにできるようになる日が来るかもしれません。個人的には皆さまと一緒に集まって、対面でにぎやかに行えるのが一番だと思っています。しかし、ひとつの方法にとらわれるのではなく色々な手段を持っていたほうが有事の際には応用が利きます。新しい楽しみもあるかもしれません。会員の皆さまもそれぞれの立場でしんどい時期を過ごしておられると思いますが、「明るく！楽しく！わかりやすく！」の NPO 救命おかやまの精神で、新しい時代を迎えませんか。

感染管理の立場からもう一言。いつまで新型コロナと呼ばれるのか分かりませんが、このウイルスである SARS-CoV2 が普通の風邪扱いになったとしても、感染対策自体が変わるわけではありません。特に医療現場ではマスクの着用は必要だと思いますし、心肺蘇生の時に感染症から自分の身を護る行動を忘れないでいただきたいです。

2. ご報告

◆2021年度第3回理事会 2021年12月17日 オンラインZoom

理事長：氏家良人

2021年12月17日に2021年度第3回目の理事会を開催いたしました。議題は、会員数報告、11月までの活動状況報告、今後の活動予定、また、6月～11月までの会計報告がなされました。会員数は、正会員44名、活動会員257名、賛助会員：団体会員20団体・個人会員1人（2021/12/1現在）で、我々の活動を支えてくれています。会計もこれまでのところ健全会計で経過しております。

尚、コロナ禍の状況の中、少しでも情報提供ができればと考え、ミニ講演会をオンラインZoomにて第1～3弾を下記開催いたしました。

- ・第1弾 2022年1月21日(土) 19:00～20:00
演者：石井史子理事「バイスタンダーのサポート」
- ・第2弾 2022年3月18日(土) 19:00～20:00
演者：山内英雄先生「重症新型コロナウイルス感染症とどう向き合ってきたか」

・第3弾 2022年3月18日(土)19:00~20:00

演者：BLS：角南和治監事、ACLS：齋藤博則理事

「ガイドライン2020のポイント～講習会再開に向けて、ポイントをおさらいしましょう～」

※第4弾も企画しております。決定しましたらメールご案内いたしますので、皆様ご参加ください。

3. ご案内

◆2022年度NPO救命おかやまの活動について

- ・第17回定時総会/第16回講演会/2022懇親会：2022年7月23日(土)於岡山プラザホテル4F「鶴鳴の間」
※定時総会・講演会・懇親会の詳細は、〈6.事務局からのご案内〉より確認ください。
- ・各コース開催について：コロナ禍の状況を見ながら検討。HP・メールにてご案内予定
- ・2022おかやまマラソン「AED班スタッフ活動」：おかやまマラソン事務局より依頼を受けて現在募集中
※詳細は会報後頁またはHP・会員メールよりご確認ください。
※おかやまマラソン2022：2022年11月13日(日)
- ・2022市民のための救命講習会：2022年11月12日(土)14:00~15:30
※マラソン協働事業として、岡山県医師会・NPO救命おかやまの共催で開催
※対象をマラソンランナー・マラソン関係者・一般市民(感染防止に充分留意して開催いたします。)

4. 医療におけるタスクシェア、タスクシフト -誰が何ができるようになるのか-

理事長 氏家良人

今、人口が減少し、高齢化社会が進む中で、医療界ではこの数年間で実現をめざす大きな3つの改革(医療の三位一体の改革)が進められています。改革の1つ目は地域医療再編という医療施設の最適配置と医療間の連携、2つ目が医師の偏在改革、そして、3つ目が医師および医療者の働き方改革で、この3つ目がNPO 救命おかやまの会員である多くの職種にさまざまな影響を及ぼすことが知られています。

医師は労働時間が非常に長いことが知られていますが、法的には、週の勤務時間は40時間前後で、時間外は月に45時間、年に360時間に収め、例外的に月80時間、年720時間を上限として認められています。しかし、私が今、管理している病院では20%程度の医師が月に100時間を越える時間外勤務をしています。したがって、法律違反が常態化しているわけです。この勤務時間の上限規制を行うものが働き方改革で、「良質な医療を効率的に提供する体制を構築する」という名の下で進められています。医師の仕事を他の医療者とシェアしようというのがタスクシェアで、完全に、業務を他の医療者に委ねようというのがタスクシフトです。これまでも、医療クラークなどにより、事務的な業務のシェア・シフトは行われてきましたが、今回は、これまで法律で出来なかった医療行為が多くの医療職にシェアやシフトされるようになってきています。例えば、救急救命士は種々の心肺蘇生やショック、呼吸不全に対する医療行為が許可されていましたが、それは救急現場および医療機関搬送までの間に限定されていました。しかし、昨年10月から病院内で可能になりました。また、看護師はこれまでも医療安全や感染管理、臨床倫理、緩和ケアなどの分野では中心的役割を果たしてきましたが、臨床面でも特定看護師、認定看護師などにより法的に医療を担えるようになってきました。このタスクシェア・タスクシフトは薬剤師、放射線、臨床検査、リハビリテーションの医療技術者や臨床工学技士、管理栄養士などに広く振り分けられています。この改革は、医師を助けるということではなく、各医療職がプロフェッショナルとしての地位を高めるチャンスととらえることもできます。

今回は、NPO救命おかやまとしては特殊な内容のトピックスですが、多職種が会員となっているNPOであることから、情報交換としてこの改革への取り組みや感想などを含めて書いて頂くことにしました。

【救急救命士】 ~医療におけるタスクシェア、タスクシフトは誰が何を出来るようになるのか~

川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科 救急救命士養成コース 岸 誠司

私は倉敷市消防局で勤務した後、救急救命士養成教員に転じて5年目を迎えます。

みなさまもご承知のとおり、救急救命士はこれまで院外の救急現場から医療機関に搬送するまでの間しか救急救命処置の実施が認められていみせんでしたが、令和3年10月に医師の負担軽減を目的として救急救命士法が改正され、救急救命士の活動範囲が救命センターなど救急外来にまで緩和されました。ただし、緩和の条件として院内研修や医療安全などの教育体制及び院内メディカルコントロール体制の構築など一定の条件を整備した医療機関に

勤務する救急救命士が対象である点は注意が必要です。

また法改正はあくまでも活動場所について改正されたのであって、救急救命処置の内容や対象者については従来通りのため、救急救命士と一緒に勤務する医療関係者にとっては連携上の難しさを感じるかもしれません。タスクシフトを確実に推進することが最優先であれば、気管挿管などの特定行為に固執せず医療機関のニーズに合わせた救急救命士の運用を行うべきかもしれません。

今回の法改正は従来から医療機関で勤務する全国の救急救命士らがタスクシフトにつながる成果を着実に出して信頼を得てきたからだと解釈しています。今後、さらなるタスクシフトの推進やそのための法改正には、多職種連携の強化、新規養成教育のカリキュラムや救急救命処置範囲の見直し等を図っていくべきではないでしょうか。

【看護師】 ～患者安全のための他職種での協働～

水島協同病院 看護師 多賀 美和

私は、2006年4月に日本救急医学会認定 ICLS コースインストラクターとなり今日に至るまで ICLS コースで細々とインストラクターを続けています。ICLSで学んだことは、「患者の命（安全）を守るためには、ひとりのスーパーDrがいるだけでは患者は助からない、チームでの対応能力を向上するための仕組みが大切」であるということです。このことは、蘇生現場だけでなく、日々の医療現場での取り組みが非常に重要であると感じています。しかし、これらのチーム力は勝手に身につくものではありません

『協働』とは、複数の人や団体が同じ目的に向かって対等な立場で協力して働くこととありますが、これこそがまさに医療におけるタスクシェア、タスクシフトだと考えています。患者の安全を守るという当たり前のことを当たり前にするためには日頃から目的を明確にし、協働するためのメンバーを確認し、協働しやすいふるまい（態度・行動・発言）で心理的安全性が担保された職場醸成を行い、さらに改善するための振り返りが必要となります。

しかし、現状では日々の業務に追われてそれぞれの職種内ですら目的が希薄になっているように感じています。看護師であれば、「患者のいつもとの違い」に気づいたときに適切に観察しアセスメントをした内容が的確に医師に伝えることができれば、患者の安全を守ると同時に医師の負担軽減につながります。また、組織横断的に働く緊急医療チームや心停止前の患者の変化時に介入する RRS（Rapid Response System）チームなどの活動は、主治医とは違う第3者の視点が介入することで患者安全につなげるとともに主治医の負担も結果的に軽減します。また、自分たちの観察力、アセスメント力、報告能力が正当に評価され、それが患者の安全につなげることができればプロフェッショナルとしての意識がさらに向上します。目的を明確にした個人のスキルアップと組織としてのチーム力アップのための取り組みは両輪でトレーニングしていく取り組みが必要です。

NPO救命おかやまでの活動は、同じ目的に向かって、立場や職種に違いはあっても対等に話し合うことができる場所であったと思います。私の今があるのは NPO 救命おかやまでの皆様とのつながりが原点です。今後も患者安全のために『協働』できるために何ができるのかを文脈的につなげる活動をしていきたいと思っています。

【薬剤師】 ～薬剤師の視点から～

岡山大学病院 薬剤部 入院支援室 山田 あかね

2010年度に厚生労働省医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出され、メディカルスタッフが専門性を生かし医師と協働して行うべき業務が例示されてから早10年が経ちました。通知を受け、様々な場面で活躍する薬剤師の業務が評価され、診療報酬上の加算が次々と新設されました。そのうちのいくつかをご紹介します。

・病棟薬剤業務実施加算

当院では近年、医師に代わって病棟薬剤師が定期処方を入力したり、TDM（薬物治療モニタリング）を行い薬剤投与計画を立てたりするようになりました。このような病棟スタッフの負担軽減及び安全な薬物療法の提供に繋がる、病棟での薬剤師業務が対象となる加算です。一般病棟だけでなく EICU などの超急性期病棟においても、こうした業務をはじめ多くの薬剤の薬学的モニタリング、病態を踏まえた薬剤選択や投与量調節を提案し貢献しています。

・周術期薬剤管理加算

2022年度に新設された診療報酬で、薬剤師が周術期に必要な薬学的管理を行うこととされています。先進的に一部の病院では手術室に薬剤師が配置され、常備薬管理や注射薬の調製などを行っています。術中使用薬剤の準備や術後鎮痛薬の確認など、今後も介入が求められる業務は山積しています。

こうした状況を踏まえ、より多くの場で他職種から学び連携することの必要性を感じています。その中で、タスクシェア・タスクシフトの視点から新たに薬剤師の専門性を生かせる場面に会えるかもしれない、そんな期待を抱いています。

【診療放射線技師】 ～診療放射線技師のタスクシェア、タスクシフト～

川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 准教授 竹井 泰孝

川崎医療福祉大学で診療放射線技師の養成教育を行っている竹井と申します。この度、氏家先生よりご指名をいただき、診療放射線技師のタスクシフトについて寄稿する機会をいただきました。本稿ではタスクシフト、タスクシェアによって、診療放射線技師は何が出来るようになるのかを解説させていただきます。

診療放射線技師は主に病院や診療所で X 線撮影や CT、MRI などの画像診断や放射線を出すお薬（放射性医薬品）を用いた検査や治療、がんなどの悪性腫瘍に対する放射線治療などを行っています。また CT や MRI などで身体の中をよくわかるようにするお薬（造影剤）を静脈から注射して検査を行います。検査終了後に針を抜いた後の止血処置なども業務として行っています。

今回の医師の働き方改革によるタスクシフトにより、私たちの身分を定めた診療放射線技師法や関連した法令などが改正され、新たに医師や看護師の業務の一部を担うことになりました。新たに業務範囲として拡大の行為の詳細については、厚労省の Web サイトでご確認ください。

(<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000704450.pdf>)

今回のタスクシフトで診療放射線技師の最も大きな業務拡大は、検査のために造影剤や放射性医薬品を投与するために静脈に針を刺す行為（静脈路確保）が行えるようになったことです。

これまで静脈路確保は医師や看護師、造影剤投与は医師、看護師、診療放射線技師、撮影は医師や診療放射線技師、抜針は医師、看護師、診療放射線技師と異なる医療者が実施してきましたが、これからはこれらの業務を全て診療放射線技師が一連の業務として担当することが可能となり、医師や看護師の負担軽減だけでなく、検査効率の向上による患者さんの待ち時間減少につながります。

ただし私たちこれらの業務を実施するためには、診療放射線技師の職能団体である日本診療放射線技師会が実施する基礎研修 700 時間、実技研修 385 時間 計 1085 時間の告知講習を受講しなければなりません。日々の仕事を行いながらの告知研修の受講はかなり大変ですが、ともに業務を行う医師や看護師の負担軽減だけでなく、患者さんへより良い医療を提供するために頑張りたいと思います。

【臨床工学技師】 ～タスク・シフト/シェアの推進により臨床工学技士ができるようになった行為について～

理事 堀 純也（岡山理科大学）

臨床工学技士は人工呼吸器や人工透析装置、人工心肺装置、補助循環装置などの生命維持管理装置の操作が主な業務です。今回の法改正でも「生命維持管理装置を用いて行う治療において」という前提条件のもと、次のような業務が追加されました。

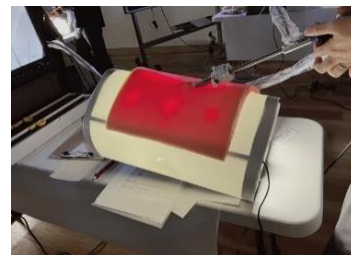
まずは、手術室または集中治療室での治療のために、静脈路へ輸液ポンプまたはシリンジポンプを接続する行為やポンプ操作、薬剤投与終了後の抜針と止血、それらのポンプを接続するために静脈路を確保する行為です。生命維持管理装置を用いて行う治療に対して静脈路の確保ができるようになりました。

次に心臓または血管に係るカテーテル治療で身体に電氣的刺激を負荷するための装置の操作ということで、いわゆるアブレーション治療のための操作が加わりました。

さらに、鏡視下手術における内視鏡用ビデオカメラの保持と視野確保のための操作が可能となりました。

また、血液浄化装置の穿刺針等を表在化された動脈や表在静脈へ接続したり、除去することも可能となりました。

ただし、現在の臨床工学技士免許を持っている人がこれらの業務をすぐに行えるわけではなく、厚生労働省指定の 2 日間にわたる告示研修（座学が約 20 時間、実技実習 2 日間の研修）を受講しなければなりません。私も 2021 年 11 月にイービーエム羽田医療技能訓練所で受講しました。写真はその時の内視鏡用ビデオカメラの保持と操作の研修を受けているところです。



内視鏡用カメラ操作の研修の様子

また、これまでの法律の範囲内で医師の具体的な指示のもとに実施可能なこととして、明確にされた行為としては、血液浄化においてバスキュラーアクセスへの接続を安全に行うために必要となる超音波診断装置による確認（いわゆるシャントエコー）、麻酔器の準備、操作や麻酔記録、気管挿管の準備や薬剤の準備、手術時に術者に器材や医療材料を手渡す行為（いわゆる器械出し）などがあります。

治療に関する臨床工学技士の業務範囲が拡大したことで、今後ますますチーム医療の一員として患者様のために貢献できるのではないかと思います。

5. おかやまマラソンAED班募集

2022年、おかやまマラソンからの依頼を受けAED班スタッフを募集いたしております。
下記QRコードよりお申込みいただけますので、よろしくお願いいたします。

事務局HP「事務局からのご案内」からも募集要項内容を確認できますのでよろしくお願いいたします。

待機AED班



自転車AED班



フィニッシュAED班



おかやまマラソン2022 AED班スタッフ募集要項		申込締切 6月30日(木)	スケジュール
活動日 ●2022年11月13日(日)	申込方法 ●郵送 / FAX / E-mail 申込書に必要事項を記入の上、下記に送付してください。 入力用電子ファイルをご希望の際は、下記メールアドレスにご連絡ください。 〒703-8293 岡山市中区小橋町1-1-25 岡山県庁小橋町庁舎1F おかやまマラソン実行委員会事務局 競技運営課 FAX：(086) 224-1570 E-mail：info@OkayamaMarathon.jp	6月30日(木)	申込締切
募集人員と活動内容 ①自転車AED班 (24名) AEDを所持し、自転車でコース上を一定のペースで走行し、ランナーの状態を観察。傷病者の早期発見、初期対応や、重症者の応急対応、一次救命処置 などをを行う。 ②待機AED班 (76名) AEDを所持し、コース上の配置ポイントにて待機し、通過ランナーの状態を観察。傷病者の早期発見、初期対応や、重症者の応急対応、一次救命処置 などをを行う。 ③フィニッシュAED班 (30名) AEDを所持し、フィニッシュ会場の各地点にて待機し、ランナーを観察。傷病者の救護所への搬送や、緊急時の一次救命処置 などをを行う。	注意事項 ●申し込みは先着順とし、募集人員になり次第、締め切ります。 ●活動場所については、NPO救命おかやま事務局と相談の上、決定しますので、ご了承ください。 ●活動は長時間にわたり、立ったままでの活動が主となりますので予めご了承ください。 ●ご登録住所に救護活動に関するご案内を送付しますので、郵便番号、住所、建物名、郵便番号は正確に記入ください。 ●参加できなくなった場合は、直ちに事務局へご連絡ください。 ●体調管理チェック・検温を義務付け、活動当日に確認し、必ず、発熱、咳などの症状がある場合、参加をお断りします。 ●参加にあたり、ワクチン接種証明または陰性結果の提示を求めることがあります。 ●65歳以上の方、基礎疾患を有する方などは、新型コロナウイルス感染症による重症化リスクが高いことを認識した上でご参加ください。 ●参加者等で、新型コロナウイルス感染症の感染者等が発生した場合、保健所等の聞き取り調査にご協力いただくことがあります。 ●主催者の感染防止等対策上の指示に従ってください。 ●感染状況等を総合的に判断し、中止する場合があります。	9月上旬	救護スタッフ説明会のお知らせ ※活動場所や説明会の日程等についてご案内します。
活動時間(予定) ①自転車AED班 7:30～15:00 ②待機AED班 7:00～15:00 ③フィニッシュAED班 9:30～16:45 ※活動場所によって異なります。	支給物品(予定) ●スタッフウェア・キャップ ※活動日に欠番された場合は、支給物品を返却していただきます。(返却送料は各自負担) ●記念品、不織布マスク、使い捨て手袋等防護具 ●QUOカード(交通費・食事代相当) ※食事等の支給はありません。 ※2016大会以降のスタッフウェア・キャップをお持ちの方は、リユース推進の観点から、再利用にご協力願います。	10月9日(日) ※予定	救護スタッフ説明会 ※マニュアル、スタッフウェア・キャップ、不織布マスク等を お渡しします。
申込締切 ●2022年6月30日(木) 必着	活動の留意事項 ●活動中の早退、途中からの参加はできません。休憩は適宜、交代でとっていただく予定です。 ●荷物預ける場所はありません。貴重品を含め、荷物は各自で管理し、盗難や紛失に十分ご注意ください。貴重品や荷物の紛失に関しては、主催者は一切の責任を負いません。 ●更衣場所はあります。予め動きやすい服装で活動場所に集合してください。また、寒暖・雨天対策は各自で行ってください。 ●自転車AED班の自転車は事務局で用意(岡山市コミュニティサイクルももちろですが)、個人所有の自転車でも活動していただくも構いません。なお、個人所有の自転車は、必ず自転車損害賠償責任保険等に加入してください。 ●活動に参加するための交通手段・経路の確認や宿泊の手配は各自で行ってください。 ●当日は現地集合・現地解散になります。集合場所付近に駐車場がない(待機AED班を除く)ので、可能な限り公共交通機関を利用するなど、交通手段の手配は各自で行ってください。 ●当日は事前にお渡しするスタッフウェア・キャップ、マニュアル、不織布マスク等防護具を必ずご持参ください。 ●事故やケガがあった場合は、主催側で加入するスタッフ傷害保険の適用範囲内で対応します。(個人負担なし) また、医師等賠償責任保険についても主催者側で加入し、保険の適用範囲内で対応します。(個人負担なし) いずれの保険も新型コロナウイルス感染症の感染は、補償対象外となります。	11月12日(土)	ランナー受付 救命講習会(NPO救命おかやま、岡山県医師会)
おやかまマラソン2022大会概要 開催日時：2022年11月13日(日) 8:45 スタート 主 催：おかやまマラソン実行委員会 主 管：(一財)岡山陸上競技協会	個人情報の取扱いについて ●主催者は、個人情報の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し、主催者の個人情報保護方針に基づき、個人情報を取り扱います。 ●大会に関連する救護活動を円滑に行うことを目的とし、活動内容連絡、説明会開催連絡、出欠管理、関連資料送付、登録情報の確認連絡、参加履歴・経歴に基づき配置、アンケートやレポート依頼、各種保険手続きのために利用します。 ※事務局から、申込内容に関する確認連絡をさせていただく場合があります。 ●救護活動中の映像・写真・記事・記録等のテレビ・新聞・雑誌・インターネット等への掲載権は主催者に属します。また、大会プログラムなど、主催者が発行する媒体において、氏名を掲載する場合があります。 ●新型コロナウイルス感染症の感染者等が発生した場合、感染防止対策上、必要な情報を保健所等に提供します。	11月13日(日)	おかやまマラソン2022
	お問い合わせお申し込み おかやまマラソン実行委員会事務局 競技運営課 TEL:086-226-7913 (9:00～17:00 ※土・日・祝日は除く) FAX:086-224-1570 E-mail: info@OkayamaMarathon.jp 大会ホームページ http://www.OkayamaMarathon.jp/		～活動の様子～  自転車AED班  待機AED班  フィニッシュAED班

6. 事務局からのご案内

♡総会・講演会・懇親会(ご案内) <<パンフレット同封>>

◆第16回：2022講演会開催のお知らせ◆

開催場所：岡山プラザホテル4F「鶴鳴の間(中)」
開催日時：2022年7月23日(土) 17:00-18:00
対 象：会員および興味のある皆様どなたでもご参加いただけます。

【講演会・懇親会・総会出欠用QRコード】

講演タイトル：『救急標準化講習 いま・むかし』

～「3歳児のモー娘。」から「バーチャルリアリティ活用」まで～

演 者：清住 哲郎 先生 (防衛医科大学校 防衛医学講座 教授)

♡講演会終了後【懇親会(参加費2,000円)】を18時～岡山プラザホテル4F「鶴鳴の間(東)」にて開催予定です。
※総会・講演会・懇親会の開催方法は、今年は参加型での開催予定です。感染状況により開催方法に変更の可能性があります。ありますが、その場合はHPや会員メールよりご案内いたします。
※総会・講演会・懇親会の参加お申込みは、NPO救命おかやまHPから、又は、前頁QRコードよりお申込下さい。



◆第17回：定時総会開催のお知らせ◆

開催場所：岡山プラザホテル4F「鶴鳴の間（中）」
開催日時：2022年7月23日（土）16:30-17:00
対象：正会員

※正会員の皆様へ：有効数確認のため出欠お返事および委任状の提出が必要のため、必ず事前回答を皆様 お願い致します。NPOのHPから、または「講演会・懇親会」右上QRコードにて総会についてもあわせて回答下さい。



♡救命講習会(ご案内) <パンフレット同封>

◆2022NPO 救命おかやま第15回市民のための救命講習会のお知らせ◆

開催場所：ジップアリーナ岡山『サブアリーナ』
開催日時：2022年11月12日（土）14:00-15:30
対象：一般市民、マラソンランナー
定員：100名(先着順) ※小学生以下の方は、保護者の方と一緒にお申込ください。

♡会費請求(ご案内)

NPOの年度の始まりは6月となっております。新しい年度（2022年度）になりましたので、会費請求ご案内と青色の会費請求用振込用紙を同封いたしております。お振込み用紙をご確認いただき、会費のお支払いをよろしくお願い致します。赤色の振込み用紙は寄付専用ですのでお間違えないようお願いいたします。なお、NPO救命おかやまの定款により、3年間会費を滞納した会員は自然退会となり、メーリングリストからのメール削除および会報の発送は行われなくなりますのでご注意ください。

※お振込み先の振替口座は、銀行からの振込も可能です。
銀行振込を希望の方は、会員番号とお名前を記入の上お振込みをお願い致します。

【会員用郵便振替口座】口座番号：01310-8-95943
口座名義人：NPO救命おかやま(エス・オー・キョウメイカヤマ)

【会員用銀行振込】会費用銀行口座
ゆうちょ銀行 一三九(イサキヤ)店 当座 口座番号0095943
口座名義人 特定非営利活動法人NPO救命おかやま
(トク化イリカクツウキョウゾウエス・オー・キョウメイカヤマ)

※会費についてのお問い合わせは、事務局までメール（officek@kyumeiok.sakura.ne.jp）にてご連絡ください。

♡ボランティア保険の加入に関して

会員で活動に参加くださる皆様にはボランティア保険（Aタイプ）会員の加入手続きを行います。こちらの保険加入条件は前年度の会費を年度末（5月末）までにお支払していただいた会員の方が対象で、費用は会費に含まれます。不明な点がございましたら、事務局までメール（kyumeiok@md.okayama-u.ac.jp）にてお問い合わせください。

◆住所・勤務先の変更について

住所・勤務先、メールアドレス等の変更はお早めに随時事務局までメール・FAXにてご連絡ください。
※お振込み用紙記載の勤務先や連絡先住所・TEL等に変更がある場合は、変更記入の上、入金手続きをお願いいたします。

◆入会のご案内

NPO救命おかやまでは現在会員を募集いたしております。NPOの活動にご興味のある方のご紹介をお願いいたします。お申し込みは、HPの入会の項目よりお申し込みフォームにてお申し込みください。
尚、HPにて申込入力後、またはコース開催時の入会申込用紙提出後、入金はまだの方は会員の手続きは未登録の状態となりますので、早めの入金をお願いいたします。

◆寄付金募集のご案内

NPO救命おかやまでは現在寄付を広く募集いたしております。NPO救命おかやまの活動のさらなる充実のため、心肺蘇生の輪を広げるこの活動にご賛同いただき、寄付金のお申込みいただけます場合は、同封の赤色の振込用紙（寄付用）よりお申し込みをお願いいたします。

また、NPO救命おかやまの活動にご賛同いただける方が周りにいらっしゃいましたら何卒ご紹介の程よろしくお願いいたします。

尚、NPO救命おかやまは特定非営利活動法人ですので、寄附に伴う税制上の優遇措置はありません。

※寄付専用の振替用紙をご利用ください。寄付の振替用紙での会費のお支払いはできませんのでご注意ください。

【寄付用郵便振替口座】口座番号：01300-9-104786

口座名義人：NPO救命おかやま(エス・オー・キョウメイカヤマ)

【寄付用銀行振込口座】ゆうちょ銀行一三九(イサキヤ)店当座口座番号0104786

口座名義人：特定非営利活動法人NPO救命おかやま

(トク化イリカクツウキョウゾウエス・オー・キョウメイカヤマ)

【発行元】 特定非営利活動法人 NPO救命おかやま 事務局

〒700-0914 岡山市北区鹿田町1-7-10

電話&FAX：086-226-3999

E-mail：office@kyumeiok.sakura.ne.jp

HPアドレス：http://npo-ok.umin.jp

